

# 花と緑の銀行だより

172号 2009.7



チゴユリ／上市町

目次	・花と緑の提言 .....	2	・技術講座 .....	6
	・花壇コンクール .....	3	・この人あり .....	7
	・緑づくりコーナー .....	4	・ニュースとお知らせ .....	7
	・活動事例 .....	5		



## 富山市の花と緑について

富山県市議会議長会会長  
富山市議会議長 **五本幸正**

花と緑の銀行だよりの発刊に際し、貴行には花と緑の普及と推進に多大なるご支援とご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

ご承知のとおり平成17年4月に、7市町村の合併により誕生した新富山市は深海から雄大な北アルプスまでの自然豊かな地形で、水と緑に恵まれた中核都市となりました。平成20年7月には「環境モデル都市」として認定されたこともあり、花や緑の普及に対しては多くの市民が関心をもっておられるところであります。

さて、合併から4年が経過いたしました。新富山市の花木等については、検討を重ねた結果、この程、市の「木」に「ケヤキ」、「花木」に「ツバキ」、草花に「ヒマワリ」が決定されました。

今後はそれらの保全や普及推進に努めていかなければならないものと思っております。

また、市では花と緑を普及推進するために三つの事業に取り組んでおります。

一つには、『都市の緑を守る事業』で、富山市緑化推進条例に基づき、民間有識者等の意見を施策に反映させるための審議会を開催するとともに、古くからある古木・巨木など一定基準を満たすものを樹木・樹林として指定し、緑の保全と美観風致を守るように努めているところであります。現在、市内には430本の指定保

存樹木と5箇所 of 保存樹林があり、市街地での緑の保全に努めております。

二つには、『緑を育てる事業』で、緑豊かな潤いのある生活環境を確保するため、緑化に関するイベントの開催や、「花とみどりの少年団」の育成のための助成を行うなどして市民の緑化意識の普及、啓発を図っております。

三つには、『緑化推進事業』で、草花苗等の配布を行い市民グループ等の自発的な緑化活動を支援するとともに、花いっぱいコンクールを開催し、その成果を市民に紹介しているほか、市民菊まつりを開催し、伝統的な菊の良さをアピールするとともに、菊作りの楽しさも学べるよう努めております。また、中心市街地においてハンギングバスケットを設置して街なかの環境を「花」で彩ることなどの事業の展開も行っているところです。

今後とも市民の皆様の幅広いご意見をいただきながら、花と緑の推進に努めてまいりますので、一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



## 花壇コンクールの審査にあたって

平成20年度富山県花のまちづくりコンクール審査員

日展会友（染織家） 十二町 薫

梅雨に入り、通りすがりの道端や庭先で花壇づくりが一段落したようですね。雪解けとともに、草花の色、種類、周辺の景観との調和を考え、花壇のデザインをした上で、まだ少々すきまの見える花壇を見ると、天の恵みによってずんずん成長して行くのだろうと、フツと笑みがこぼれてしまいます。

何か一言と、依頼を受け、さて何を書いたものかと思い巡らせている時、浮かんできたのは、何もわからず花と緑の銀行に顔を出し、いろんな花壇を見せてもらったこと、そしていろんな人達にお会いすることが出来たことでした。

「あ、今年もこの花壇を見せてもらえた。そして、この方にお会いできた。今年はどうされたのだろうか、あの花壇、あの方は。」

どの花壇にも携わってこられた人達の顔があり、私はコンクール審査で花飾りのデザインを担当しているのですが、デザイン審査だけに留まれないような気分になります。

花壇作りは、子育てと同じではないでしょうか。日々ふれあい、はぐくみ、いつくしみ、急がず休まず、一步一步、そして少しでも我が花壇の良いところをわかってもらいたいと、目を輝かせ、コンクールに応募されていることと思います。

仕事から、色と対話をして過ごしていきます。樹皮、葉、花から色を頂いて布を染めて行きます。これからの季節、藍染めはいかがでしょうか。日本人は藍が好きです。そして先人は、美しく、しゃれた名称を考えました。ほんのちょっと藍

に浸した淡い藍色を「かめのぞき」、3～4回染めた明るい色を「浅黄」、7～9回染めたものを「納戸」、19～23回染めた濃紺を「褐色」と。戦国武将は「勝色」としてこの色を好んだとか。

藍に限らず花の色も千差万別、葉の色だってそうです。さらに色だけではなく葉の形や質感、茎や枝による直線や曲線、また景観との調和も考慮し、学校、幼稚園、保育所、団体、企業、個人、また規模の大きなものから小さなもの、それぞれの特徴をいかした個性ある花壇で、テーマをしっかりとった花壇を見せていただきたいと思います。

一昨年からコンテナガーデンコンテストが開催されました。花壇とは異なり、デザイン、色彩の凝縮された作品を広く皆さんに関心を持って頂き、花と緑の輪がますます広がることを願います。

今年もまた、花のまちづくりコンクールの季節が近づいてきました。コンクールに挑戦し続けることは大変なことだとは思いますが、より多くの人にかわいい我が花壇を見せてあげてください。新しい花壇を見せていただけることを心待ちにしています。



## 庭木に利用する樹種の特徴と管理

日本樹木医会富山県支部  
樹木医 西村 正史

庭木として利用されている樹木には、クロマツやアカマツに代表される針葉樹、季節毎にきれいな花を提供してくれるクチナシやハナミズキ、さらには秋にすばらしい紅葉を提供してくれるモミジ類などがあります。

ところで、富山県内ではどのような樹木が庭木として利用されているのでしょうか。花と緑の銀行が発行した「とやま緑づくり」には、一般住宅に利用されている樹木の種類が、和風向き、洋風向き、玄関前の低木または低い生垣、車寄せ（正面）に分けて記載されています（表-1）。和風向きではクロマツやアカマツなどの常緑樹が庭の中心に植栽されてその対比としてモミジやウメなどの広葉樹がセットで植栽されることが基本であること、洋風向きでは花木が適していること、玄関前ではツツジ類などの低木が適していることなどが記載されています。庭木として個々の樹木の特徴を述べるには紙面がとても足りません。「とやま緑づくり」には、個々の樹木についての特徴、取り扱い方、管理と手入れ、病虫害対策、利用などが丁寧に記載されていますので、この書物を参考にして頂ければ幸いです。

庭木の管理では病虫害対策と樹木の樹勢を健全に維持することではないかと思えます。

前者では、①葉が急に少なくなり葉を食っている幼虫がいる、②糞が地面に落ちている、③葉が糸で綴られており中には幼虫がいる、④虫コブが葉にある、⑤葉の色が薄くなり虫眼鏡でみると小さな虫がいる（ハダニやゲンバムシなど）、⑥病気に特有な病斑が葉や枝にある、などが基準になるかと思えます。対策として重要なのはこのようなサインを早期に発見することです。早期に発見できれば薬剤に頼らなくても対応策をとることもできますし（例えば、アメリカシロヒトリの巣を切り落として足で踏みつぶす）、薬剤を利用することになっても、少量の散布で済ませることができるという利点があります。

後者では樹木の状態を観察して、異常なサインを早く見つけることが大切です。異常なサインとしては、①葉量が少なくなった、②樹木の先端部分の枝が枯れ始めた、③根元から萌芽が多数でている、などがあります。病虫害がいなくても係わらず、このような症状が見られるようになったら、多くの場合、根の生活圏である土壌に何らかの原因があるというサインです。造園関係の専門家に原因とその対応策を立ててもらい、実行してください。

表-1 一般住宅における植栽と樹種

区分	植栽	樹種
和風向き	庭の中心に真木をおく。常緑樹が適する。	クロマツ、アカマツ、ラカンマキ、モッコク、キンモクセイ、シラカシ、モチノキ、タイサンボク、コブシ、ウメなど
洋風向き	明るい庭づくりで花木が適する。直線的、曲線的に植栽し刈り込んで美しいもの。	ハナミズキ、ドウダンツツジ、アベリア、キャラボク、イチヨウ、カイズカイブキ、コウヤマキなど
玄関周辺の低木または低い生垣	内生垣などで、家の品格を表すための低木を入れる。	キャラボク、イヌツゲ、サツキ、ヒラドツツジ、オオムラサキ、クチナシ、アベリア、ヤツデ、ツバキ、サザンカ、アジサイ、ドウダンツツジ、ハクチョウゲ、ユキヤナギなど
車寄せ周辺の樹	景観を強調し、家の品位を出すための樹種の選定。	ラカンマキ、クロマツ、イチイ、スイリユウヒバ、モチノキ、タイサンボク、キンモクセイ、ヒイラギなど

## 富山をさくらの園に

とやまさくら守の会  
会長 小原 耕造

### ・とやまさくら守の会のあゆみ

富山県は、県内で日本におけるさくらの自然種が全て見られる恵まれた立地条件にあり、広く県民に桜に親しんで貰うため、

1. 「富山さくらの名所」50箇所を選定
2. 野生のさくらの苗木づくり
3. さくら守の養成

などの事業を展開してきました。

さくら守の養成は、平成15年から17年の3期に渡り、東は朝日町から西は小



種の栽培

矢部市までの県下一円に満遍なく48名が養成されました。養成後受講した人を中心に今後の活動組織として「とやまさくら守の会」を自主的に組織しました。

### ・活動の内容

主な活動は

- さくらの植樹
- さくらの保護
- さくらの調査研究（日本櫻学会での発表）
- 県民一般を対象とした観桜会の実施

などです。

植樹では、新川牧場、福岡五位ダム、大嶺山、トナミロイヤルなどの植樹に協力し、保護活動では、林業試験所、庄川、氷見な



苗木の植樹

どで栽培・芽接ぎ・苗床管理の研修を、舟川べり桜並木、県ガラス工房、黒部コラーレで



雪で折れた樹木の管理

剪定研修を、上市、閑乗寺、城端で樹木管理の研修を行いました。

調査研究では、

新聞で狂い桜と報道される、県内における二季咲き桜（春と秋に咲く）の分布状況と二季咲き桜の一種の十月桜の変種調査を行い「日本櫻学会」での発表を行いました。また、調査が進む中で従来変わった樹があると疑問に感じていた樹が新種であり「コシノフユザクラ」と命名され、報道機関に取り上げられ話題を呼びました。

会（17年度養成終了後）が発足して丸三年を迎えた今春から、「県民の観桜会」を、呉東では黒部市で呉西では高岡市古城公園で開催いたしました。

さくらの歴史、花見の起源、種類の見分け方、ソメイヨシノの起源と標準木になった由来、富山県固有の桜などについて解説を行いました。今後県下をめぐり、多くの県民の皆さんが更に「さくら」に関心を深めて頂くような活動を続けていきたいと思っております。



初めて開催された「県民の観桜会」

## 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②

職藝学院  
教授 渡邊美保子

宿根草は、葉っぱの色や形を組み合わせでデザインすることも出来ます。葉を楽しむ代表的な宿根草として、ここ数年たくさんのギボウシの品種が流通するようになりました。江戸時代、シーボルトがヨーロッパへ持ち帰って以来、海外では数多くの品種が作り出されました。園芸店で見かける品種は、もともとは日本のギボウシが品種となって里帰りしたと考えるとなんだかとても愛おしくなります。



写真1：職藝学院宿根草実験ガーデン

写真1は、青みがかった葉をもつギボウシ・ハルシオンと、葉の縁を黄色い筆で塗ったようなギボウシの品種ワイドブリン、その手前にライムグリーンの子葉のリシマキア・ヌムラリアの品種オーレア、赤紫の小花が空中をふわふわ飛んでいるように咲くアケボノフウロの品種マックスフレイです。組み合わせのポイントは、葉の色が反対色になる黄色系と青色系の葉を隣同士になるように植栽することです。このときにアクセントになる明るめの小花の咲く宿根草を組み合わせますと、デザインが引き締まります。ただし、大きな花は、むしろ目立ってしまうのであくまでもギボウシの脇役になる小花を選びます。また、斑入りの品種は多くても2種類ぐらいで異な

る斑の色を選びます。たくさん入れすぎると目がそちらこちらに遊んで落ちつきのない庭になるので気をつけましょう。

庭園でギボウシの園芸品種を育てるコツは、日本の森に自生している原種のギボウシが育っている環境をつくることです。日本を代表する原種オオバギボウシなどは、落葉樹の森の林縁の明るい木陰がお気に入りです。ギボウシの芽吹きの前は十分に太陽の光が入り、葉を広げる頃には木々の葉が茂り、秋にギボウシの葉が枯れる頃には落ち葉がギボウシの上に積もります。このような自然をお手本にして、植え付けの際には腐葉土をたっぷりとすきこみ、庭園でも森と同じような環境をつくりましょう。たとえば、庭の南側に落葉樹がある方は、木の北側の根元に植栽することをおすすめします（写真2）。横に伸びた木の枝が太陽をさえぎり、やわらかな木漏れ日があたる環境ができあがります。秋に落葉樹の葉が落ちたら、そのままギボウシに被せるようにして、森と同じように時間をかけて腐食に富んだ土を作りましょう。落葉樹がない方は、家の東側など午前中は日が当たり、午後は日陰になるような場所を選びます。



写真2：早稲田大学ワポットハウス研究所中庭（岐阜）



## 浪漫を求めて

魚津市上野方地方銀行

グリーンキーパー 前島岳雄さん

新川広域農道を車で進むと、たくさんの花たちが咲き誇って迎えてくれます。上野方花と緑の地方銀行の「ふよう街道はなぐるま花壇」です。その花いっぱい道沿いに、今回ご紹介いたします上野方地区グリーンキーパーの前島岳雄さんの自宅があります。

前島さん宅の庭は、高台にあり富山湾が一望できる素晴らしい眺めが自慢です。そして四季折々の花木であふれています。よく見知らぬ人が、車を停めて思わず庭先に入ってきて花木を眺めていくとのこと。もちろん、人ばかりでなく裏山よりカモシカの親子が降りて来て庭先で遊んだり、また、たくさんの花の蜜を求めるミツバチもかかっておられます。今、ラベンダーの花が満開で、やさしい芳香に心が落ち着きます。ブルーベリーも実り始めており、大自然のお花畑にいるようです。

「自分の身体は、自分で守る」をモットーに、前島さんは、自給自足の生活を送っておられます。「無から有を生み出す」ことが楽しみであり、人生は、浪漫であるとのこと。花木満開の庭も岩や石がゴロゴロしていた荒地を7～8年かけてコツコツと造り進めて来られました。そして今も浪漫を求め造り続けています。

近隣の方はもちろんのこと、花に誘われ突然訪れた見ず知らずの人にも花苗等を分けて、浪漫の輪を広げ続けておられます。自宅の庭から始まった浪漫の輪が、地域を通じてさらに広がり続けていくことを期待します。

（執筆者 魚津市農林水産課主査 花と緑の銀行魚津支店 舘 知子）

〈ニュースとお知らせ〉

### 「第24回花しょうぶ祭り」の開催

6月12日～21日に600品種、70万株が植栽された県民公園「頼成の森」で開催されました。県外からの来園者も例年より多く、6万7千人以上が訪れました。



### 「とやまオープンガーデンマップ」の発刊

誰でも見ることができる花壇や庭等138カ所を掲載した花壇見学のガイドブックを発刊しました。花壇を契機として美しい富山の自然や文化、味などを堪能していただきたいと思います。

今後200カ所を目途に掲載カ所を増やしていきたいと思いますので、自慢の花壇等の写真撮影など今から準備を進めて次号に掲載して頂きたいと思います。

詳しくは銀行本店（電話：076-466-2425）までお問い合わせください。

### 「夏休み子供園芸教室」の開催

花総合センターで、子供たちにもっと花に親しんでもらおうと、お盆の前後（8月8日、22日）に、園内の夏の花の観察会やヒマワリを使った実験教室、工作教室を開催します。親子での参加も大歓迎です。

詳しくは花総合センター（電話：0763-32-1187）までお問い合わせください。

表紙写真：チゴユリ 全国丘陵林内に分布するユリ科の多年生草本 上市町  
裏表紙写真：春の溪流（百間滑） 富山市



春の溪流（百間滑）／富山市

### 花と緑の銀行だより 172号

発行日 平成21年7月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

#### 富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

#### 富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

#### 県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

